

大学1年で4留。無駄にも
思える空白の時間は、その後
の方向性を決めるために必要
な時間だった。

3留目は「哲学時代」。当時
24歳で、生きるとは、国家とは、
結婚は必要か。毎朝の牛乳配達
の後、ひたすら考えた。高校の
同級生で、今も花まるで一緒に
西都文啓君とも議論を繰り返し
ました。例えば、たばこのポイ
捨ては駄目だから逮捕、では変
わらない。そういうことをやり

人間 発見

たかない人間を育てるしかな
い。人を変えるには教育が芸術
だ。西都君とは「教育は大切な
ことになりました。」

1 単位のみ落とした4留目は
さすがにもったいないとロシア
語やギリシャ語など10カ国語を
勉強をする決めました。でも
徹夜でも追い付かず、自分を追
い込み過ぎたのか、心が壊れて
しまいました。

目がぐるぐる回り、電車で乗
るのも不安。医師になった友人

④ モテる大人に育てたい

花まる学習会代表 ^{たか}高 ^{まさのぶ}正 伸さん

に話す。「心の病気では」。と
にかく走りまわりました。何事も走る
と疲れて眠れたのです。頑張れ
と言われても無理な時がある。
その気持ちの方が分かる、良い経験
になりました。

農学部を卒業し、大学院農
学研究科修士課程に進み、家
庭教師や塾講師などのアルバ

イトに励む。幼稚園児と過こ
すバイトを通じ、子供の教育
のあり方を深く考え始める。
上京し、医学部進学を目指す
弟の家庭教師を皮切りに塾講師
も始めました。教え出したら面
白く、体調も良くなりました。
日本交通会長、川鍋一朗君は教
え子の一人です。

想像力培う教育を 採用面接「君が社長」



子供らと接したアルバイト経験が花まる学習会の土台になる

夏期講習で中学
生の不良グループ
を教えました。理
科で浮力の授業。
しらけた雰囲気
でしたが「ここに死
体がありました」と
話し始めると
「死体？」と不良
たち。「悪人が湖
に沈められました
が、浮き上がって
きます。体積を押
しのけて……」と
続ける、耳を傾
け始めます。最後
は「高浜先生」と
態度が変わって
いました。

園児が牧場や海辺など野外で
過ごす合同お泊まり保育も手伝
いました。僕はあだ名も付けら
れ、引っ張りだこでした。元気
いっぱい、目がキラキラ。小さ
な子供たちを教えたいという思
い、今の花まるの野外体験につ
ながっています。

そして気づいたのです。真面
目で成績もよい子供の勉強に決
定的な壁がある理由を。立体的
の要領や補助線が浮かばないこ
とこそが問題なのです。パターン
を繰り返しても能力は伸ばせま
せん。数学的思考力と語める力、
やりきる力は、秘密基地やかく
れんぼをはじめ、幼少期の外遊
びで培われる、いきいきと浮か
ぶ想像力が源泉なのだ。

その頃、ある幼稚園の園長に
「メシを食える大人を育てなけ
ればならない」と問題意識を話
すと「うちの幼稚園で、卒園生
向けに塾を開いてはどうか」と
打診されました。

教材も考えて準備を進めまし
たが、資金不足で断念し、塾を
運営する会社に就職することに
しました。ところが面接で履歴
書と一緒に塾の企画書を見せる
と「君が社長をやらないかい」
と子会社をつくらせてくれて、僕が
社長になり、花まる学習会が始
まります。